

ビジョンに掲げた5年間の取組		令和6年度の計画（R6.5.28 報告内容）	構成員	連携団体	取組実績・成果（令和6年度）	進捗状況	今後の取組方針
諏訪湖環境研究センターの運営		諏訪湖環境研究センターの運営	諏訪湖環境研究センター		諏訪湖環境研究センターの運用体制を整え、水質及び生態系に関する一体的な調査研究を推進した。	A	引き続き、調査研究を推進。（本項目は削除し、個々の調査研究ごとに計画及び実績評価を行う。）
調査研究の推進	①諏訪湖の底質、貧酸素発生状況の把握及び貧酸素の改善手法に関すること	漁場環境水質調査	水産試験場諏訪支場		・湖心：月1回 ・他4地点：週1回（5月～9月）	B	2月および3月に湖心において調査実施予定 週1回（5月～9月）の調査は終了
		貧酸素調査	諏訪湖環境研究センター	信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所	・湖内連続測定7地点（7月～12月）	B	引き続き、調査研究を推進
		底質調査	諏訪湖環境研究センター	信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所	・底質酸素消費量調査 湖内2地点（6月）、データ分析中	B	底質酸素消費量のモニタリングを継続する等、引き続き調査研究を推進
		プランクトン調査	諏訪湖環境研究センター		・植物プランクトン1地点（湖心） 月1回	B	引き続き、調査を推進
			水産試験場諏訪支場		・動物プランクトン1地点（湖心） 月1回	B	2月および3月に調査実施予定 令和7年度からは諏訪湖環境研究センターへ調査引継ぎ
	②貧酸素水塊の挙動に関すること	貧酸素調査（再掲）	諏訪湖環境研究センター	信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所	・湖内連続測定7地点（7月～12月）	B	引き続き、調査研究を推進
	③ヒシ除去場所及び覆砂場所における水質浄化効果と生態系に及ぼす影響に関すること	覆砂場所モニタリング	諏訪湖環境研究センター		・水質4地点（7月、8月、12月） ・底質4地点（7月、10月）分析中	B	これまでの調査結果から短期的な変動が小さいことを踏まえ、今後は調査頻度を見直し効率的な調査を実施する
		水質モニタリング	諏訪建設事務所		・下諏訪町高浜沖他（7月～10月 月1回）	A	調査方法の見直しも含めて、引き続き水質モニタリングを実する。
		覆砂場所生物モニタリング（シジミ）	水産試験場諏訪支場		・自然繁殖したシジミの生息調査： 6地点（5月、8月、11月）	A	諏訪湖内のシジミを含む二枚貝の生息状況について調査継続
		底生生物・魚の定性調査	水産試験場諏訪支場		・底生生物・魚種別の個体数： 6地点（6月、8月、10月）	A	4～5年間の調査結果により一定の傾向は把握できたので、調査終了について会議で提案予定
	④沈水植物の分布状況、水生植物の適正管理など植生に関すること	水生植物分布調査	水産試験場諏訪支場		・ヒシ及び水生植物の分布 全湖岸水域（7～8月 年1回）	A	水生植物の分布状況を把握するため調査を継続する
		湖辺植生調査（沈水植物、抽水植物等）	諏訪建設事務所		・Cゾーン（R3 水辺整備箇所）年3回（春、夏、秋）	A	引き続き湖辺植生調査を実する。
		湖辺植生調査（抽水植物等）	環境保全研究所		・抽水植物帯の植物調査（年5回・6～10月） ・ドローンによる空撮	B	引き続き、調査研究を推進
	⑤水質や関係データの解析、汚濁負荷物質の収支など汚濁負荷のメカニズムに関すること	水質常時監視	諏訪湖環境研究センター		・湖内環境基準点3地点及び釜口水門 月1回	B	引き続き、調査研究を推進
		水質常時監視（流入4河川）	水大気環境課 諏訪湖クラブ		・上川、宮川、砥川、横河川 6地点（月1回）〔外部委託〕 ・諏訪湖流入河川、天竜川で計30地点（全国一斉水質調査、6月2日）（継続）	B	（水大気環境課） 外部委託により実施 （諏訪湖クラブ） 継続
		水浴場水質調査	諏訪湖環境研究センター		・湖内環境基準点3地点 年2回（5月、8月）	A	引き続き、調査研究を推進
	⑥諏訪湖に流入する河川の水量、諏訪湖への地下水流入の状況など水の流れに関すること	流入河川水量等調査	諏訪湖環境研究センター		・塚間川、承知川（～3月）	B	塚間川等の調査は一定の成果が出たため、来年度は宮川もしくは上川で調査を行う予定
	⑦流出水対策地区における汚濁負荷の低減に関すること	（H29～R1年度に実施済）					

ビジョンに掲げた5年間の取組		令和6年度の計画（R6.5.28報告内容）	構成員	連携団体	取組実績・成果（令和6年度）	進捗状況	今後の取組方針
調査研究の推進	⑧多様な魚類の生息環境を形成するための技術に関すること	魚群探知機による資源量調査	水産試験場諏訪支場		・ワカサギ資源尾数推定 湖内全域（6～11月 月1回）	A	ワカサギの生息状況を検証するため調査継続
		稚魚ネットによるワカサギふ化仔魚調査	水産試験場諏訪支場		・湖心、高浜 各1地点（4～6月 9回）	A	ワカサギの生息状況を検証するため調査継続
		漁獲量等調査	水産試験場諏訪支場	諏訪湖漁協	・湖内全域（毎月）	B	漁場環境を把握するため調査継続
	⑨マイクロプラスチックの存在実態把握に関すること	諏訪湖まるまるゴミ調査	ビジョン推進会議構成員他		・第5回諏訪湖まるまるゴミ調査 11/9	A	引き続きごみの無い諏訪湖WGの取組を継続する。
		マイクロプラスチック調査	諏訪湖環境研究センター		・令和7～9年度の3ヶ年で、土地利用の異なる地点における調査等を行い流出特性を把握していく計画を予定している。6年度は地点選定、予備調査を実施。	C	予備調査の結果をふまえて、調査研究を実施
	⑩有害化学物質の環境残留実態と生態系への影響に関すること	環境残留実態調査	諏訪湖環境研究センター		・環境残留実態調査に向けた予備調査を実施（8～9月、上川・宮川及び湖内） ・環境省委託事業の初期・詳細・モニタリング調査（10～12月）	C	・環境残留実態調査の実施 ・初期・詳細・モニタリング調査の測定結果の精査、R7年度の採取物質の計画
	⑪諏訪湖の水質・生態系への気候変動の影響と適応策に関すること	気候変動による災害地支援	和限	NPO法人どんぐりモンゴリ	・炭素保全による温室効果ガス削減、災害地の再生として、水草堆肥、炭利用	B	水草堆肥、竹炭を農地、山地の土壌への保全を進める。
		定点撮影カメラによるヒシ等の分布および結氷状況のモニタリング調査	環境保全研究所	国立環境研究所 信州大学理学部 附属臨湖実験所	・観測地点6箇所：湖面全域（日中2時間おきに画像を取得）	B	引き続き、調査研究を推進
	⑫その他	カモ類（魚食性鳥類を含む）生息個体数調査	諏訪地域振興局林務課		・6月、10月、1月に諏訪湖及び主な流入河川、天竜川で調査を実施した。	C	引き続き年3回の調査を継続し、個体数の推移を確認していく。
		令和6年度諏訪湖における環境改善事業の手法の検討ならびにその効果と生態影響調査	水大気環境課		・令和5年度実施のヒシ刈取試験区のフォローアップ（事後調査） ・水生植物分布調査の定量評価調査 ・浚渫場所の環境影響調査 ・シミュレーションモデルの精度向上に資するデータ整理	A	・令和7年3月4日水草対策WGにおいて事業成果報告実施 ・底層溶存酸素量の環境基準等設定に活用
		諏訪湖カワアイサ対策生態調査（R1～R5年度に実施済）					
		指標水生動物(メダカ)の保全に向けた啓発	諏訪地域振興局環境課 諏訪湖環境研究センター		(県環境課) ・メダカサナエ保全WGによる検討(諏訪湖環境研究C) ・流入河川の成虫調査3回（8月～9月） ・諏訪湖岸の羽化殻調査3回（7月～8月） ・保全手法検討会議を1月に開催 ・教員向け学習会の開催 ・諏訪湖環境研究センターでの啓発(159団体)	(県環境)C (諏環C)A	・調査期間、頻度の拡充 ・市民調査に向けた検討 ・センター来所者等に向けた啓発事業を継続